

1.1 在宅医療に関する啓発（1）

	事業の目的		事業内容	実施主体	実施していること	
1.1.1 本人・家族への在宅医療に関する啓発	【大目的】 在宅で十分療養生活が可能であることや、どのようなサービスが受けられるかの市民全般の認知度が向上している	【小目的】 多くの市民が冊子・パンフレット・広報・ホームページ等の各種媒体に日常的に触れ、在宅療養の知識を蓄積している	①市民に対する啓発用小冊子・パンフレットの作成・配布	市地域包括ケア推進課	・啓発用冊子の作成、配布 市：よくわかる在宅医療、かかりつけ医のススメ 在宅医療・介護連携サポートセンター ：みんなで支える在宅医療 クリヤーファイル ：かかりつけ医・歯科医・薬剤師をもちましよう 啓発冊子 ：「小牧の在宅医療」「在宅医療コットンバック」 ：サポートセンター啓発マグネットクリップ	
			②本人や家族等に対し外来時や入院時等に医療・介護関係機関の専門職等から説明	医療・介護関係機関	・必要に応じて、適宜実施 【H30年度】 ・サポートセンター職員がサロン巡回の同行、啓発（7回）	
			③市民に対し、広報等の特集やホームページに継続的に掲載	市地域包括ケア推進課 社会福祉協議会	・市広報へ掲載 【H27年度】 H27. 5. 15号、9. 1号 【H28年度】 H28. 9. 1号 【H30年度】 H30. 7. 1号 ・ケーブルテレビで啓発 【H27年度】 H27. 7. 6～7. 12 【H30年度】 H30. 7. 2～7. 8	
	【小目的】 多くの市民が様々な講座を受講することで、在宅療養の知識を蓄積している	④市民に対し、外部講師や受講者等によるゆうゆう学級における講座の提供	市生涯学習課	・ゆうゆう学級のメニューとして取り入れてもらえるよう、H30年度より市出前講座にわた史ノートをメニュー化した 【H30年度】 ・出前講座等の実績：14回		
				⑤市民に対し、関係の専門職等による講師団や在宅医療経験者等を講師とする出前講座の提供	社会福祉協議会 市地域包括ケア推進課 介護保険サービス事業者連絡会 在宅医療・介護連携サポートセンター 地域包括支援センター	・市立寿学園（65歳以上を対象とした月1回の催し）での講演 【H28年度】 H28. 6. 17（在宅医療） 【H29年度】 H30. 2. 9（わた史ノート） ・在宅医療市民向け講演会 【H26年度】 3回：H26. 11. 15、H27. 1. 17、3. 21 【H27年度】 1回：H28. 2. 28 【H28年度】 1回：H29. 2. 19 【H29年度】 2回 認知症フォーラム：H29. 10. 1 在宅医療・介護市民講演会：H30. 2. 18 【H30年度】 2回 認知症フォーラム：H30. 9. 28 在宅医療・介護市民講演会：H31. 2. 16
				⑥在宅医療に係るキャンペーン等効果的な啓発の実施	市地域包括ケア推進課 在宅医療・介護連携サポートセンター 地域包括支援センター	・市民講演会、寿学園などの開催に合わせて、在宅医療・在宅介護について普及啓発を実施 【H30年度】 ・サポートセンター職員がサロン巡回の同行、啓発（7回）
1.1.2 在宅医療従事者への在宅医療に関する研修	【大目的】 在宅医療に関する各職種が、研修を受講し、在宅医療・介護の知識・技術等を深め、実践しようとしている	【小目的】 各職種が研修を受講し在宅医療への知識を深めている	①従事者に対する職種単位や組織内での研修会の開催	市民病院 医師会 歯科医師会 薬剤師会 介護保険サービス事業者連絡会 介護支援専門員連絡協議会 地域包括支援センター	・それぞれの組織内で必要な研修を定期的に行う	
			【小目的】 各職種が職種横断的な研修を受講することで在宅医療における多職種連携の実践的なノウハウを蓄え、実際の連携につなげている	②従事者に対し多職種合同の研修会の開催	市地域包括ケア推進課 関係機関	・多職種研修会の開催 【H28年度】 3回：H28. 7. 12、10. 20、H29. 1. 19 【H29年度】 3回：H29. 7. 28、10. 26、H30. 1. 25 【H30年度】 2回：H30. 11. 8、H31. 1. 24 ・医師とケアマネの座談会の開催 【H28年度】 H28. 11. 10 【H29年度】 H29. 11. 9 ・薬剤師とケアマネの座談会の開催 【H29年度】 H29. 11. 30 ・医師とあゆむ勉強会（H30～医療・介護勉強会） 【H28年度】 6回：H28. 5. 11、6. 9、7. 13、9. 14、11. 9、H29. 2. 15 【H29年度】 7回：H29. 4. 12、6. 14、8. 9、10. 11、12. 13、H30. 2. 7、2. 14 【H30年度】 5回 ：H30. 5. 9、7. 24、10. 23、11. 27、H31. 1. 22
				③ケアマネと医療機関との連携強化	市地域包括ケア推進課 市介護保険課 地域包括支援センター 医師会	

1.1 在宅医療に関する啓発（2）

	事業の目的		事業内容	実施主体	実施していること
1. 1. 3 最期の迎え方とその準備に関する啓発 セミナー、冊子等	【大目的】 市民一人ひとりが最期の迎え方に意識を持ち、望みを明確化し準備できるようになっている	【小目的】 最期を自宅で迎えられることを見聞きし、自らの希望する最期の迎え方を考えられるようになっている	①市民に対する、様々な職種・立場の方からの講演会・体験談等の実施	市地域包括ケア推進課 市民病院 地域包括支援センター 社会福祉協議会 医師会 在宅医療・介護連携サポートセンター	・在宅医療市民向け講演会 【H26年度】3回：H26.11.15、H27.1.17、3.21 【H27年度】1回：H28.2.28 【H28年度】1回：H29.2.19 【H29年度】2回： 認知症フォーラム：H29.10.1 在宅医療・介護市民講演会：H30.2.18 【H30年度】2回 認知症フォーラム：H30.9.28 在宅医療・介護市民講演会：H31.2.16
		【小目的】 学校教育を通じ生命や人生に対する考え・意識を持つようになっている	②児童生徒に対し生命・人生についての教育の実施	市内小中学校（教育委員会）	【H29年度】 ・H30年2月改正の中学2年生社会科副読本「小牧」内にわた史ノートの啓発ページを新たに盛り込むことを検討 ・わた史ノートを普及啓発するため、地域包括支援センター職員等に対する講習会を実施。 ・認知症サポーター養成講座などとあわせて、わた史ノートの考え方を普及啓発するなど、その普及啓発のあり方について検討 【H30年度】 ・認知症サポーター養成講座実績：10校
		【小目的】 自らの希望する最期の迎え方を考え、準備に向け取り組めるようになっている	③市民に対し、映画「エンディングノート」等の上映やエンディングノートの紹介	社会福祉協議会 市地域包括ケア推進課 生涯学習課 地域包括支援センター	【H27年度】 ・H27.4 わた史ノート作成 ・H27.11 テレビ愛知より取材 【H28年度】 ・H28.8.30 豊川市がエンディングノートを作成したことに伴いNHKより取材 ・H28.10、11 民生委員に対し、わた史ノート作成の経緯などを説明 ・H28.12.6 中日新聞に掲載 【H29年度】 ・H29.4.15 号広報に掲載 ・H30.2.9 市立寿学園で講演会 ・H30.2.13 地域包括支援センター職員等を対象にわた史ノートの作成の経緯などを説明 ⇒ 次年度より市出前講座にわた史ノートをメニュー化 【H30年度】 ・出前講座等の実績：14回

1.2 在宅医療に関する情報整理・提供

	事業の目的		事業内容	実施主体	実施していること
1. 2. 1 在宅医療に関する情報整理	【大目的】 在宅医療に関し必要・参考となる情報が逐次・定期的に収集・整理されている	【小目的】 在宅医療の提供者の状況（供給量等）が定期的に把握・整理されている	①アンケート調査等により、医療機関等に対し、在宅医療及び連携する介護サービスの実施状況等の照会及び実施に向けた課題の洗い出し	医師会 歯科医師会 薬剤師会 介護保険サービス事業者連絡会 市地域包括ケア推進課 市介護保険課 在宅医療・介護連携サポートセンター	【H27年度】 ・在宅医療・介護連携サポートセンターが医師会員及び訪問看護ステーションのアンケートを実施 【H28年度】 ・在宅医療・介護連携サポートセンターが医師会員のアンケートを実施 ・市が歯科医師会員、薬剤師会員向けのアンケートを実施 ・市が医師会員向けのアンケートを実施（往診・訪問診療の件数や看取りの件数について調査） 【H29年度】 ・市が医師会員向けのアンケートを実施（往診・訪問診療の件数や看取りの件数について調査） ・在宅医療・介護連携サポートセンターが訪問看護部会から訪問看護ステーション概要一覧の情報提供 【H30年度】 ・市が医師会員向けのアンケートを実施（往診・訪問診療の件数や看取りの件数について調査） ・アドバンスケアプランニングに関するアンケートを実施 援助者研修受講者のリスト化 ・新規開設訪問看護ステーションの情報提供
		【小目的】 在宅医療の需要者の状況（需要量・分布・ニーズ等）が定期的に把握・整理されている	②アンケート調査などにより、利用意向、利用に際しての課題の洗い出し	市地域包括ケア推進課	【H27年度以降、毎年度】 ・市が市民（40歳以上の市民2,000人、無作為抽出）向けのアンケートを実施
		【小目的】 関係機関で共有すべき情報が、逐次把握・整理されている	③個々の医療機関等から、在宅医療の実施状況（規定の様式）を登録・更新	医師会 歯科医師会 薬剤師会 介護保険サービス事業者連絡会 市地域包括ケア推進課 在宅医療・介護連携サポートセンター	【H28年度】 ・在宅医療・介護連携サポートセンター及び市が実施したアンケートより、医療機関等の情報を集約したマップを作成。関係機関等に配布 【H29年度】 ・WEB上で、閲覧可能な医療・介護マップを作成 【H30年度】 ・新設医療機関に対し、掲載依頼を実施
1. 2. 2 在宅医療に関する情報提供 （冊子等）	【大目的】 在宅医療に関する情報が、必要な時に迅速・的確に入手できている	【小目的】 入手・活用したい情報項目が利用者から定期的に把握されている	①医療機関や高齢者へのアンケートの実施	市地域包括ケア推進課 地域包括支援センター	【H27年度以降、毎年度】 ・市が市民（40歳以上の市民2,000人、無作為抽出）向けのアンケートを実施 【H28年度】 ・第7次小牧市高齢者保健福祉計画の策定に向けて、市民（65歳以上で要介護認定を受けていない市民2,000人、要介護（要支援）認定を受けている市民2,000人、無作為抽出）向けアンケートを実施
		【小目的】 当事者・家族等が、必要な情報提供を受け、在宅療養とするか等を判断できるようになっている	②退院等する市民やその家族に対する、退院調整会議等での案内	市民病院 医師会 歯科医師会 薬剤師会 市地域包括ケア推進課	・必要に応じて、適宜実施
		【小目的】 在宅医療を希望する市民が、実施機関に関する情報を随時入手できるようになっている	③市民に対し、実施機関マップ等を作成し配布 ④在宅医療を支える医療機関や訪問看護ステーション等の情報紹介	市地域包括ケア推進課 医療関係機関 市地域包括ケア推進課 市介護保険課 地域包括支援センター	【H28年度】 ・在宅医療・介護連携サポートセンター及び市が実施したアンケートより、医療機関等の情報を集約したマップを作成。関係機関等に配布 【H29年度】 ・WEB上で、閲覧可能な医療・介護マップを作成 【H30年度】 ・WEB版医療・介護マップの運用
1. 2. 3 在宅医療相談窓口の設置	【大目的】 窓口相談することで、在宅医療についての不安や疑問等が解消され、円滑に在宅医療に移行できている	【小目的】 市民が窓口を通じ気軽に相談できている	①市民からの在宅生活に関する総合相談窓口機能を強化し、在宅医療で何ができるか、どこで受けられるか等の情報を集約、ワンストップで提供	地域包括支援センター 在宅医療・介護連携サポートセンター	【H27年度～H29年度】 ・在宅医療サポートセンターを開設 ・在宅医療サポートセンター会議の開催（月1回） 医師（医師会委員代表、第一病院代表）、社会福祉協議会 介護事業所代表、第一病院看護部長、春日井保健所、小牧市リハビリテーション連絡会代表、訪問看護代表、介護支援専門員連絡協議会代表、在宅医療中核サポートセンターコンダクター、市 【H30年度】 ・上記の会議を発展 歯科医、薬剤師、小牧市民病院、地域包括支援センターをメンバーとして新たに招へい
		【小目的】 在宅医療の利用希望者に、適切な療養体制を整え提供できている	②相談から利用に向けた調整機能の構築	市地域包括ケア推進課 在宅医療・介護連携サポートセンター	・サポートセンターの相談件数 【H27年度】17件 【H28年度】26件 【H29年度】41件 【H30年度】58件（2月末まで）

1.3 在宅医療提供体制の整備（1）

	事業の目的		事業内容	実施主体	実施していること
1.3.1 在宅当番医体制の構築	【大目的】 在宅医療を支える医師の診療体制が整っている	【小目的】 訪問診療を行う医師が十分な数いる	①在宅医療医の拡充と在宅医療実施機関間の連携	市地域包括ケア推進課 医師会 歯科医師会 薬剤師会	【H29年度】 ・訪問診療実施医療機関と各専門職との意見交換会開催
		【小目的】 医療機関が訪問診療医を支えている	②訪問診療医に対する後方支援病院の確保	市民病院 保健所 医師会 歯科医師会 薬剤師会	・小牧第一病院と小牧市民病院に後方支援病院としての機能を協定により位置づけている。
		【小目的】 訪問診療医の定期訪問の間を看護師がきめ細かくフォローしている	③訪問看護師の確保と、訪問診療医との連携強化	介護保険サービス事業者連絡会 医療関係機関 市地域包括ケア推進課 市介護保険課	
		【小目的】 より効果的な在宅医療の提供に向け、調整・評価改善等がなされている	④在宅医療・介護を推進する多職種連携体制の構築・運営のための連絡調整、運営状況の評価・改善等を行う仕組みの検討 ⑤その仕組みをどのような組織で動かしていくかの検討	市地域包括ケア推進課 関係機関 ・市民病院 ・医師会 ・歯科医師会 ・薬剤師会 ・地域包括支援センター ・介護保険サービス事業者連絡会 ・介護支援専門員連絡協議会 ・在宅医療・介護連携サポートセンター	・在宅医療・介護連携推進協議会を設置 【H27年度】3回 【H28年度】3回 【H29年度】3回 【H30年度】3回 ・小牧市医師会在宅医療サポートセンター運営協議会 【H27年度】3回 【H28年度】3回 【H29年度】3回 *H30年度からは、協議会と一本化 【H29年度】 ・在宅医療サポートセンター 副科（眼科・耳鼻咽喉科）の依頼等の手順構築 ・小牧在宅摂食嚥下サポートチーム（小牧ごっくんサポート） ・多職種連携 ICT の導入 H29.10.1:こまきつながるくん連絡帳導入 【H30年度】 ・居宅（在宅）患者訪問薬剤管理指導の手順構築 ・H31.1 ICT 運営移行：スマートフォン等での対応可 ・副科（精神科・泌尿器科・整形外科）の診療科依頼拡大 ・小牧ごっくんサポートによる出張勉強会開催 1回
1.3.2 訪問看護との連携体制構築	【大目的】 訪問診療医の定期訪問の間を、連携する訪問看護師がフォローしている	【小目的】 研修会やカンファレンスを通じ多職種が連携している	①多職種による連携課題の解決などの研修会の実施	市地域包括ケア推進課 市介護保険課 地域包括支援センター 医師会 歯科医師会 介護保険サービス事業者連絡会 在宅医療・介護連携サポートセンター	・多職種研修会の開催 【H28年度】3回 H28.7.12:医療と介護の連携推進に向けた課題の共有と解決策の検討 H28.10.20:経管栄養の方に対する口腔アプローチ あなたならどうする H29.1.19:正しく飲めなきゃ命のキケン ある認知症の夫婦へのアプローチ 【H29年度】3回 H29.7.29:在宅医療導入研修会（一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会 理事 小澤竹俊氏） H29.10.26:復職バンザイ～脳出血後遺症のある方の支援を考える～ H30.1.25:それぞれの生き方・逝き方～本人の意志に寄り添う支援のあり方を考える～ 【H30年度】2回 H30.11.8:通所系サービスの今後をみんなで考える～終末期の方の対応はどうしてますか？～ H31.1.24:摂食嚥下をとりまく環境をみんなで考える～こんな時どの職種がかかわりますか？～

1.3 在宅医療提供体制の整備（2）

	事業の目的		事業内容	実施主体	実施していること
1.3.2 訪問看護との連携体制構築	【大目的】 訪問診療医の定期訪問の間を、連携する訪問看護師がフォローしている	【小目的】 研修会やカンファレンスを通じ多職種が連携している	②多職種によるカンファレンスの実施	市地域包括ケア推進課 市介護保険課 地域包括支援センター 医師会 歯科医師会 介護保険サービス事業者連絡会 在宅医療・介護連携サポートセンター	・必要に応じて、適宜実施 ・小牧市訪問看護部会から「訪問看護ステーション概要一覧」の情報提供を小牧市医師会A会員に郵送し連携を強化。 【H30年度】 ・尾張北部医療圏在宅医療・介護連携研修会（春日井保健所主催）を小牧市で開催。テーマ：多職種カンファレンス
		【小目的】 研修により、医師を補完する高度な訪問看護が提供できるようになっている	③看護技術向上への研修の実施	介護保険サービス事業者連絡会	・介護保険サービス事業者連絡会の「訪問看護・訪問リハビリ部会」において適宜実施
1.3.3 訪問介護との連携体制構築	【大目的】 医師と連携した訪問介護事業者が在宅療養での生活面を支えている	【小目的】 研修会を通じ、多職種が連携している	①多職種による連携課題の解決などの研修会の実施	市地域包括ケア推進課 市介護保険課 医師会 介護保険サービス事業者連絡会 在宅医療・介護連携サポートセンター	・多職種研修会の開催 【H28年度】3回：H28.7.12、10.20、H29.1.19 【H29年度】3回：H29.7.28、10.26、H30.1.25 【H30年度】2回：H30.11.8、H31.1.24 ・医師とあゆむ勉強会（H30～医療・介護勉強会） 【H28年度】6回：H28.5.11、6.9、7.13、9.14、11.9、H29.2.15 【H29年度】7回：H29.4.12、6.14、8.9、10.11、12.13、H30.2.7、2.14 【H30年度】5回：H30.5.9、7.24、10.23、11.27、H31.1.22
		【小目的】 研修により、医師を補完する高度な訪問介護が提供できるようになっている	②介護技術向上への研修の実施	市介護保険課 介護保険サービス事業者連絡会	・介護職員現任者研修（基礎コース、特別講義）の開催 ※隔年開催（H27は通所系、H28は訪問系）
1.3.4 在宅看取り体制の構築	【大目的】 在宅で望んだ最期が迎えられる	【小目的】 マニュアルにより看取りに対する本人・家族の不安が払拭されている	①市民に対する、看取りまでの段階別・状況別の対応マニュアル作成	市地域包括ケア推進課 医師会 歯科医師会 介護保険サービス事業者連絡会 在宅医療・介護連携サポートセンター	・各機関において、運営
		【小目的】 研修により、在宅看取りに対応する医師等が増える	②全職種で看取りに対する研修の実施	医師会 歯科医師会 介護保険サービス事業者連絡会 在宅医療・介護連携サポートセンター	・多職種研修会の開催 【H29年度】 H30.1.25：それぞれの生き方・逝き方～本人の意志に寄り添う支援のあり方を考える～ 【H30年度】 ・あいちACPプロジェクト 相談対応力向上研修：18名参加
		③ターミナル期における全職種によるカンファレンスの実施	医師会 歯科医師会 介護保険サービス事業者連絡会 在宅医療・介護連携サポートセンター	・必要に応じて、適宜実施	